

		個別事業名	区分	部署	所属	事業概要	成果(結果)を示す指標	単位	H29実績	H29目標	H31目標	H29当初(千円)	H30当初(千円)	H29決算(千円)	H29事業結果	部署評価	財政評価	
政策1.2 豊かな文化・魅力を活かしたイメージアップ																		
【目的】群馬の魅力を見直し、県民の誇りを醸成するとともに、群馬のブランド力の強化・発信、歴史文化遺産や文化・スポーツの活用により、群馬のイメージアップを進めます。																		
施策1 県民の誇り醸成																		
【目的】地域の魅力を再発見し、県民の誇りを醸成するとともに、群馬のブランド力の強化・発信、歴史文化遺産や文化・スポーツの活用により、群馬のイメージアップを進めます。																		
(1)群馬の魅力再認識																		
①県民が郷土群馬の魅力を見直し、再発見できる取組を推進します。																		
	広報021	群馬の魅力みんなでPR		総務部	広報課	県民に群馬の魅力を見直し、再発見してもらうため、県民イメージアップを推進するとともに、県の魅力を紹介する冊子を制作・配布する。	イメージアップサイトのアクセス件数	万件	90	150	150	1,802	6,336	1,790	・Webサイトについては、「くまねポート」で群馬県に関する話題を提供するとともに、文化イベント情報のカレンダーサイトによる取り組みも積極的に行う。 ・冊子「くまねが、くまねが！」は、群馬県を紹介する資料として各課で活用してもらうとともに、県民センター、行政相談事務所、くまねちゃん家等でも販売。(H29年度販売数303冊)・県内全小学校306校のうち217校(約71%)が本冊子を学習等に活用。	4継続	4継続	Webサイトは、全国に向けた情報発信ツールとして有効であるため、他所県と連携を図りながら掲載情報の見直しを行い、見やすいものとしていくとともに、他の種類のHPと調整を図りながら運用を続けていく必要がある。 ・冊子「くまねが、くまねが！」については、県内書店での販売を検討することとし、有償配布分の増額を行う。また、「くまねが、くまねが！」の冊子や動画で紹介されている内容を子どもたちが教育的に学ぶような仕組みを検討する。
	都計008	景観行政の推進	再掲	国土整備部	都市計画課	市町村、住民および事業者の地域特色を活かした景観づくりを支援・奨励するとともに、地域に根ざした景観形成推進に寄与する。	景観行政団体数	市町村	17	26	35	7,803	4,938	5,646	景観行政団体に移行して景観計画を策定する市町村に対し、上限200万円の補助を行っている。H29年度はみなかみ町・玉村町・片品村に対して向補助金を交付した。新たに景観行政団体に移行した市町村はなかった。	4継続	5継続(見直しあり)	各地域の景観のこをきめ細かく考えるためには、市町村単位で景観行政を進めていくのが望ましい。したがって、県内の全市町村が景観行政団体となるまで事業を継続する必要がある。
②群馬の文化・風土等を多角的・総合的に見つめ直し、その成果を発信します。																		
③地域の郷土料理などの食文化を保護・継承し、県民の郷土愛を高め、くまね。																		
	ブ推007	地産地消・消費拡大推進		農産部	くまねブランド推進課	地域の良質な食材の利用を進め、伝統に根ざした豊かな食の実現を図るとともに、食と農の距離を縮めた「顔の見える関係」の構築により、消費者と生産者の相互理解を促進する。	くまね地産地消優良店認定数	店舗数	42	40	50	6,194	8,236	5,729	地産地消推進店を新たに54店舗認定し、大幅に増加した。このうち、優良店も8店舗を新規認定した(既存店2店舗が閉店したため、実6店舗増加)。農業団体との連携により収穫感謝祭を開催し、県民に広く県産農産物の魅力を伝え、顔の見える関係の構築を図った。	4継続	5継続(見直しあり)	県産食材を積極的に取り扱う地産地消推進店の認定・支援や、収穫感謝祭の開催を通じ、県民運動として地産地消を推進することで、県産農産物の販売促進による農家所得の向上、経営安定が期待できることから、事業を継続して実施する必要がある。
(2)群馬の取組再認識																		
①群馬県の誇るべき先進的な施策を県民に広く発信します。																		
	広報005	テレビ広報		総務部	広報課	地域の魅力ある素材を、群馬県の魅力として、親しみやすく紹介する番組を制作することでイメージアップを図るとともに、県民生活に密着した関係情報、県からのお知らせといった情報を分かりやすく提供する情報番組を制作し、県民に情報提供する。	番組視聴率(くまね一番)	%	7.4	6	7	123,661	122,205	123,628	・くまね一番 49回/年(選挙編35回、総集編4回、アンコール放送8回、新春知事特別番組1回、同アンコール放送1回) ※群馬テレビで放送 ・県政インフォメーションコーナー 242回/年 ※群馬テレビで放送	4継続	4継続	地域の魅力ある素材を群馬県の魅力として紹介するとともに、県の取組紹介・施策についても関連づけて紹介した。「群馬県宣伝部員」である出演者が持ち味を発揮し紹介することで、親しみやすさや分かりやすさの情報発信とすることができた。地元の出演者や視聴者から、群馬の魅力を再認識・新発見できたとの声も多く寄せられ、県民の郷土に対する愛着や誇りを醸成することができた。
	広報006	くまね広報・グラブまんま発行		総務部	広報課	「くまね広報」は毎月第1日曜日に発行し、新聞折込により全戸配布している。「グラブまんま」は毎月10日(6月と10月22日を除く、1月は15日)発行し、書店での販売とともに、県内の医療機関、金融機関、飲食店、理美容院等に無料配布している。	「くまね広報」発行部数	部数/月	674,000	701,000	701,000	134,875	133,309	125,164	「くまね広報」683,000部×1回、678,000部×6回、674,000部×5回発行 「グラブまんま」15,300部×9回発行	4継続	4継続	県政の重要施策や話題、群馬の魅力を県民に幅広く知らせるために必要な媒体であるため、引き続き活用する。
	広報008	くまねちゃんの掲示板		総務部	広報課	県の政策や行事・イベント、制度改正などの県政情報を上毛新聞紙上に掲載する。	年間掲載日数	日/年	353	354	354	12,623	11,453	12,622	上毛新聞総合面に毎日(休日等を除く)掲載 353回	4継続	4継続	県の政策やイベント等の情報を新聞紙上に週5日掲載することで、県民にタイムリーに提供する媒体として、引き続き活用する。
	広報009	ラジオ広報		総務部	広報課	県政の動きや話題などを分かりやすく紹介する番組やCMを、エフエム群馬で放送する。	ワイルドPREF番組視聴率	%	4.30	4.87	5.27	28,995	27,277	28,822	ワイルドPREF 243回/年、くまね情報トピック 208回/年、スポットCM 510回/年、新春知事挨拶1回 ※エフエム群馬で放送	4継続	4継続	県の施策や話題などをタイムリーに、かつわかりやすく紹介し、県政への理解促進が図られた。また、広報案件採用までの日程に柔軟性を持たせたことにより、これまで採用が困難だった案件の新規開拓、他部署の広報マインドの向上に大きな効果が認められた。運用方法については、引き続き改善していきたい。 県民の県政に対する意識等を把握し、県政運営に生かされるため、継続。より有効な調査となるよう、調査項目や設問、選択肢等については適宜見直しを実施。
	広報011	県政県民意識アンケート		総務部	広報課	県民意識の現状を把握するため、県民嗜好度調査及び県民アンケート調査を包含する内容として実施する。	アンケート回収率	%	50.8	50	50	2,767	2,767	2,564	対象者：県内に在住する満18歳以上の男女3,300人 調査期間：平成29年5月31日～6月21日 調査項目：特定課題、嗜好度調査等 回収率：50.8%	4継続	4継続	県政に対する県民の意識を把握し、施策等に反映するため、継続。
	国保001	福祉医療費補助(子ども医療費)	再掲	健康福祉部	国保課	子育て世帯の経済的負担の軽減を図るとともに子どもたちが安心して必要な医療が受けられるよう、市町村が実施する中学校卒業までの子どもを対象とした保険医療費の自己負担分の助成に係る経費を補助する。(補助率1/2)	中学校卒業まで医療費補助を継続実施	中学校卒業まで医療費補助を継続	中学校卒業まで医療費補助を継続	4,060,511	3,991,085	3,791,050	3,791,050	子育て世帯の経済的負担の軽減を図り、安心して必要な医療を受けられるよう、市町村とともに引き続き医療費の一部負担金の助成を行った。対象者237,604人、受診件数3,607,091件、補助金額3,791,050千円	4継続	4継続	本県の子ども医療費無料化制度は、全国でも有数の手厚い制度として、群馬県が誇る子育て支援・少子化対策に非常に大きな役割を果たしている。今後、子ども健康増進や子育て世帯の経済的負担軽減を図っていくために、本制度の安定的な運営は必要不可欠である。	
施策2 群馬のブランド力の強化・発信																		
【目的】「くまねブランド」を創出し、確立し、群馬の魅力を国内外へ発信します。																		
(1)地域資源を活用したブランドの創出																		
①群馬の魅力が国内外へ印象づけるため、「くまねブランド」を創出し、確立し、国内外へと発信します。																		
	広報003	群馬のブローション		総務部	広報課	「温泉」「すき焼き」「おつきこみ」「くまねちゃん」及び世界遺産「富岡製糸場と産業遺産群」などと群馬県を結びつける、集成的にブローション活動を行う。	おつきこみプロジェクト参加店舗数	店舗数	180	180	190	4,024	3,916	3,450	「おつきこみプロジェクト」は「第3回のおつきこみコンテスト」を開催するとともに、希望店が全て参加できる形に改めたスタンプラリーを実施。また、「おつきこみ」を改訂し、その他、本県のPR素材である「上野三碑」「すき焼き」などを雑誌やWebにより情報発信した。	4継続	4継続	「おつきこみプロジェクト」については、群馬D.Cにおける「食」の視点において重要なコンテンツであることから、事業者と連携しながら本県の郷土食としてのPRをすすめていく。在京メディアへの情報発信については、本県の魅力を効果的に伝えるため、有料配給サービスの利用など受け付けが活用しやすい(本県の露出がより高くなるような情報発信方法を検討する。 本事業での検討結果を踏まえ、開設済みのフェイスブックや公式サイト(あわせGのくまねポータル)、インスタグラム公式アカウント(あわせGのくまね通信)を運営し、本県の魅力を情報発信した。また、Instagramを活用して本県の魅力を発信するフォロコンテストを開催した。
	広報019	女性の視点を活かしたイメージアップ推進		総務部	広報課	官民協働で、女性にターゲットを絞ったイメージアップ施策を検討・推進する。検討会議の開催、モニターツアーや女性誌とのコラボ企画の実施などを通して、くまねのイメージアップを図る。	テレビ、ラジオ、雑誌等でプロジェクトの取組が取り上げられた件数	件	18	14	18	8,126	6,217	7,647	官民協働による検討会議を運営し、検討された意見を踏まえ雑誌とのコラボや、モニターツアーを実施するとともに、公式サイト「あわせG」のくまね通信を運営し、本県の魅力を情報発信した。また、Instagramを活用して本県の魅力を発信するフォロコンテストを開催した。	5継続(見直しあり)	5継続(見直しあり)	H30年度で事業開始から3年が経過し、これまで事業成果を踏まえた上で、女性の視点も含め、本県の魅力をより効果的にPRしていく方法を検討。
	スポ011	アウトドアスポーツ推進		生活文化スポーツ部	スポーツ課	豊かな自然環境を活かした既存のアウトドアスポーツを踏まえ、アウトドアスポーツ「くまね」をブランド化し、国内外の観光客の増加を図る。(県境の山々の総延長100kmを活用したロングトレイル整備の検討)	横線トレイル関連イベント実施回数	回	3	3	5	34,872	31,038	29,249	未開通区間の登山道整備(測量調査、国有林貸付)、長谷登山道の集約(国立公園計画見直し、山小屋改修等)、PR事業(講演会、トレイルフォーマット、副産物PR映像作成等)を行った。	4継続	4継続	全線開通に向けた準備や、幅広い周知活動を行ったことにより、開通に向けて関心も高まっている。今後トレイルが安全に活用されるための取組に加え、関係市町村等との連携により周辺の観光資源と結びつけ、地域振興に繋がる施策の充実が必要である。

	個別事業名	区分	部局	所属	事業概要	成果(結果)を示す指標	単位	H29実績	H29目標	H31目標	H29当初(千円)	H30当初(千円)	H29決算(千円)	H29事業結果	部局評価	財政課評価		
	ブ推004 県産農畜産物ブランド強化対策		農政部	ぐんまブランド推進課	県産農畜産物販売戦略協議会を中心に、消費者・実需者の視点と連携した販売戦略を展開し、県産農畜産物のブランド力を高め、販売競争力の強化を目指す。	都中央における県産野菜重点8品目の取扱金額	億円	158	155	161	43,124	40,143	40,443	首都圏の「群馬県産農畜産物販売協力店」において、県産食材を使用した特別メニューを提供する「食彩フェア」を、民間事業者と協働で実施した。すき焼きアクションでは、新たに県民参加型の「オールくまのすき焼きまつり」を開催するなど、県産農畜産物のブランド強化を図った。	4継続	県産農畜産物のブランド力を向上させ、競争力強化に取り組むことは重要である。継続。これまでの取組について効果を検証した上で、ブランド強化に向けより効果的な事業内容を検討すること。		
	工振007 群馬県ふるさと伝統工芸品振興	再掲	産業経済部	工業振興課	伝統的かつ優れた技術・技法を持ち、知事の指定を受けた「群馬県ふるさと伝統工芸品」の普及・振興のため、展示会を開催する。	県ふるさと伝統工芸品展来場者数	人	4,384	3,500	4,000	751	702	750	群馬県ふるさと伝統工芸品展(期間：H29.6.1～5、会場：県庁県民ホール、来場者数：4,384人)など	4継続	伝統工芸品産業の振興を図るため、伝統工芸品の指定や伝統工芸士の認定を加速で行うとともに、伝統工芸品制度の認知度向上を目指したPR活動等も実施したい。		
	観物011 群馬の近代こけし普及PR	再掲	産業経済部	観光物産課	本県を代表する工芸品の一つである近代こけしをPRする。近代こけし展を開催する。	こけし展への来場者数	人	1,595	前年並(H28 2,153)	前年並	236	236	210	近代こけしPRのため、県庁において全群馬近代こけしコンクールを開催し、広く一般公開を行った。	4継続	近代こけし展は、本県を代表する工芸品の重要なPRの場となっており、継続。		
①「絹の国くま」ならではのブランド化を図り、養蚕・製糸、織物をはじめとしたシルク関連産業の創出・継承を推進します。																		
	畜園008 畜糸振興	再掲	農政部	畜糸園芸課	県オリジナル畜糸品種等の活用及び「群馬の絹」のブランド化を進め、付加価値の高い畜糸産業を展開するとともに、遺伝子組換えカイコの実用化を推進し、新産業創出による畜糸産業の維持・発展を図る。また、県産畜・生糸流通促進対策をはじめ、多様な養蚕担い手の育成、世界遺産登録を受けて観光畜糸産業を推進するなど、総合的な支援策を講じ、畜糸産業の継承を図る。	養蚕経営体における県産生糸規模拡大	kg	378	420	500	121,079	125,022	108,106	畜糸業を維持・継承するため、県内11協議会が取り組む畜産活動などに対して支援するとともに、「くま養蚕学校」を開催し、多様な養蚕担い手を育成・確保した。また、群馬オリジナル畜糸品種の畜種及び人工飼料を安定的に製造・供給、遺伝子組換えカイコの農畜業者への飼育を実現した。	4継続	協議会の畜産活動への県・市町村支援により、県全体の飼育量は前年を上回り、養蚕農家の生産意欲は高くなっており、春から夏にかけての高温の影響により、県産生糸は前年比100%となった。また、「くま養蚕学校」の開催等により企業や若者が養蚕へ参入し、施策効果が現れている。今後も、この動きを確かなものとするため、引き続き畜糸業継承対策や県産シルクのブランド力向上支援対策を講ずる。		
③県内の物産等業者に対する販路拡大・商品開発を支援します。																		
	広報002 くま総合情報センター運営		総務部	広報課	首都圏における群馬県の情報発信・収集拠点として、東京銀座のくま総合情報センター(くまちゃん家)を運営する。物産販売や観光案内の充実、情報発信の強化を図るほか、Uターン等情報提供を行い、効果的な運営を図る。	くまちゃん家が関与したメディア放送等実績	件	357	190	190	119,893	144,953	181,794	「バリエーション」(記者会資料提供443件、新聞等掲載1,331件、PR/DG開催19回)・イベント開催(延開催日数347日、175件)・観光案内(観光相談件数45,236件)・物産販売(物産販売品数1,108品、総売上額1億5,151万円)・Uターン・Iターン(相談件数330件)など	3拡充	移転により飲食店を設け、食を通じた魅力発信機能が新たに加わったくま総合情報センターの認知度を向上させ、首都圏における本県の総合情報発信拠点として更なる群馬県のイメージアップを図っていく。	5継続(見直しあり)	移転後も引き続き、立地を活かしたバリエーション活動等に取組むほか、食による魅力発信機能などの新たな強みを活かすことができるよう、活用方法の見直しが必要。新たな視点の活用を促進し、観光客等により効果的なPRと連携を進める必要がある。
④観光との連携による内水面漁業の推進を図ります。																		
	畜園009 水産振興	再掲	農政部	畜糸園芸課	河川湖沼における水産資源の保護増殖、養殖業者の育成強化と生産物の消費拡大を行うことにより、内水面漁業の振興を図る。また、河川における魚類等の生態系保全・水産資源の保護増殖のため漁場環境の保全を行い、漁業経営の安定を図る。	遊漁用ニジマス生産量	トン	4	3	30	28,542	26,843	14,074	カワウ、コナハズメの駆除、県産アユの放流促進、魚病予防などの河川遊漁漁業振興とハコブナなど県産養殖魚の生産振興を行った。また、河川を横断する農業用水取水堰へ魚道を設置するため、工事請負契約や関係者との調整を行った。	4継続	内水面漁業の振興と、カワウやコナハズメ等の駆除、アユ冷水病を中心とした魚病対策による水産資源の保護や、安全安心な養殖魚の提供及び養殖業者の振興は重要な取組である。また、魚道整備は魚類等の移動を促進し、水産資源増殖が効率化することから、継続し事業を実施する。	カワウ、コナハズメの駆除等は、内水面漁業振興に不可欠。また、魚道整備など、漁場環境の保全・整備は、漁業経営の安定を図るため、継続。また、遊漁用ニジマス生産量は目標値を回っており、生産量拡大に向けた取組を進める必要がある。	
②(2)県外に向けた戦略的な情報発信																		
①在京メディアに向けた情報発信により、群馬のイメージアップを図ります。																		
	広報003 群馬のPRプロモーション	再掲	総務部	広報課	「温泉」すき焼き「おっさりこみ」「くまちゃん」及び世界遺産「高岡製糸場と絹産業遺産群」など群馬県を結び、集中的にPRプロモーション活動を行う。	おっさりこみプロジェクト参加店舗数	店	180	180	190	4,024	3,916	3,450	「おっさりこみプロジェクト」は「第3回わが家のおっさりこみ」を開催するとともに、希望店が全て参加できる形態に改めたスタンプラリーを実施。また、マップおっさりこみ大図鑑を改訂。その他、本県のPR素材である「1.野すき焼き」などを確認しWebにより情報発信した。	4継続	「おっさりこみプロジェクト」については、群馬DCにおいて重要なコンテンツであることから、事業者と連携しながら本県のPRと連携し、PRをすすめていく。在京メディアの情報発信については、本県の魅力を即断的かつ効果的に発信し、PRの活用により認知度を向上させること、PRの活用がより高くなるよう情報発信方法を検討する。	4継続	テーマを絞ったPRプロモーションにより、本県のイメージアップを図ることは有効であり、継続。事業効果がよく分析し、より効果的なPRと連携を進める必要がある。
	広報018 インターネット広報		総務部	広報課	インターネットを利用して、県政情報ははじめさまざまな情報を県内外に発信する。	県ホームページアクセス数(トップページ)	万件	4,722	4,900	5,500	23,733	20,539	23,342	誰もが支障なくホームページを利用することができるよう、ウェブアクセシビリティに配慮したページを作成し発信するとともに、特殊アカウントの活用により災害等緊急情報を迅速に提供した。また、トップページのスライド画像等を利用して、県政情報やくまの魅力を発信した。	4継続	ホームページを利用した情報発信は、即時性、有効性、効率性が高く、県政情報や群馬の魅力を県内外に発信する上で、必要不可欠である。今後も公共サービスとして、ウェブアクセシビリティやユーザビリティ(使いやすさ)に配慮し、継続的に実施する必要がある。	4継続	タイムリーに情報発信を行うために必要であり、継続。利用者が適切に分かりやすく、使いやすいホームページとすることが重要。
	産政004 企業誘致推進	再掲	産業経済部	産業政策課	知事のプレゼンテーションを主体とした企業立地セミナー等大都市圏で開催する。定期的な企業訪問を行うことにより、立地企業の創業上の課題を適宜把握する。	企業立地セミナー参加企業数	社	70	75	75	3,763	2,503	2,166	企業立地セミナー(東京)の開催 参加企業 70社(団体)、127名 県外企業立地件数 22件(工場立地動向調査) フォローアップ企業訪問件数(県庁、東京、大阪、名古屋) 395件	5継続(見直しあり)	都内での企業立地セミナーの開催や県内外でのフォローアップ企業訪問などが効果的に作用し、好調な企業立地に結び付いている。今後は本社機能・研究開発機能の移転・機能拡充や県外優良企業の誘致促進のため、成果の検証と多様化する企業ニーズに対応した新たな実施方法を検討する。	5継続(見直しあり)	今後も好調な企業立地を維持するために継続するが、視察先の産業界の動向によるバリエーションの発生など、これまでの事業実績や効果を検証し、事業実施方法の見直しを行う。
②「くまちゃん家」の機能を一層強化するとともに、その活用の推進を図ります。																		
	広報002 くま総合情報センター運営	再掲	総務部	広報課	首都圏における群馬県の情報発信・収集拠点として、東京銀座のくま総合情報センター(くまちゃん家)を運営する。物産販売や観光案内の充実、情報発信の強化を図るほか、Uターン等情報提供を行い、効果的な運営を図る。	くまちゃん家が関与したメディア放送等実績	件	357	190	190	119,893	144,953	181,794	「バリエーション」(記者会資料提供443件、新聞等掲載1,331件、PR/DG開催19回)・イベント開催(延開催日数347日、175件)・観光案内(観光相談件数45,236件)・物産販売(物産販売品数1,108品、総売上額1億5,151万円)・Uターン・Iターン(相談件数330件)など	3拡充	移転により飲食店を設け、食を通じた魅力発信機能が新たに加わったくま総合情報センターの認知度を向上させ、首都圏における本県の総合情報発信拠点として更なる群馬県のイメージアップを図っていく。	5継続(見直しあり)	移転後も引き続き、立地を活かしたバリエーション活動等に取組むほか、食による魅力発信機能などの新たな強みを活かすことができるよう、活用方法の見直しが必要。新たな視点の活用を促進し、観光客等により効果的なPRと連携を進める必要がある。
③全国区となった「くまちゃん」の人気を効果的に活用します。																		
	広報015 くまちゃんによるイメージアップ		総務部	広報課	くまちゃんデザインの利用許諾やくまちゃんのイベントへの出動等を通して群馬県のPRを行う。	くまちゃんのイベント等への出動回数	回	137	160	160	14,560	14,681	14,476	くまちゃんデザインの利用許諾 1,704件・「くまちゃん」イベントの実施 お誕生日会：2月17日、T・V番組の撮影あり	4継続	くまちゃんは全国的に人気が高く、くまちゃんを活用した発信が効果的であるため、引き続き取組を継続していく。民間のくまちゃんのデザイン利用については、利用方法を整理し、更に効果的な活用を進めたいとともに、企業への利用の働きかけを行うこととする。	4継続	全国的認知度が向上しているくまちゃんを積極的に活用することで、効果的なPRと本県のイメージアップが期待できることから継続。
④「群馬文楽楽団」の演奏やスポーツイベント、県内プロスポーツ支援を通じてイメージアップを図ります。																		
	スポ008 全日本実業団対抗駅伝競走大会(ニューイヤー駅伝inくま)		生活文化スポーツ部	スポーツ振興課	競技コースの安全を確保し事故なく大会を実施する。テレビの生中継により全国に群馬県をPRする絶好のイベントとして、関係機関と連携し、大会を盛り上げるとともに開催地群馬県を全国にPRする。	テレビ視聴率	%	12.4	14	14	8,966	8,670	8,845	大会関係者との連携を図り、円滑な大会運営となった。沿道観覧者数は約7万人で、前回の5万人増となった。テレビでの放送だけでなくニューイヤー駅伝の観戦熱心が高まったことが一つの要因。テレビ高視聴率、ドラマの関連グッズを展示する他、各種PR事業を通じて大会を盛り上げる上でも、積極的に群馬県振興をアピールした。	4継続	視聴率は12.4%を算すると関東地方だけで約225万世帯の方々が番組を視聴しており、6時間生中継の全国放送という点を考慮するとさらに多くの方々に本県の情報を発信でき、大きなPR効果が期待できる。また、選手・役員など大会関係者、応援に訪れる方々の交通費・宿泊費・食費等々の経済効果も期待できる。	4継続	本県を全国にアピールできる機会であることから、継続。

種別事業名	区分	部局	所属	事業概要	成果(結果)を示す指標	単位	H29実績	H29目標	H31目標	H29当初(千円)	H30当初(千円)	H29決算(千円)	H29事業結果	部局評価	財政課評価		
スポーツ09 プロスポーツ支援	再興	生活文化スポーツ部	スポーツ振興課	ザス(草津、群馬ダイヤモンドベガス、群馬クインザンダースのアイエーグ)において、群馬県の観光・物産等をPRする。	各球団のホームゲーム入場者	人	142,949	146,900	149,800	2,789	2,485	2,734	県外で多くの集客が見込める各球団4試合を予定、アイエーグのチームとの連絡調整を行い、観光マップ、ホテル予約等の配布(各試合500部)などのPR活動を実施することで、群馬県イメージアップを図ることができた。(ザス：千葉、東京、山形、町田、ベガス：新潟、福島、佐野、小山、サンダース：熊本、福島、青森、広島)	4継続	各球団の活動を通して、本県の観光や物産等を直接来場者にPRすることで、本県の魅力を全国に向けて効果的にPRできる貴重なツールであり、継続して実施する。	4継続	全国に本県をPRする取組であり、継続、より効果的、効率的にPRできるよう、随時見直しながら実施していく必要がある。
文振004 群馬文芸楽団支援	再興	生活文化スポーツ部	文化振興課	子どもたちに音楽の素晴らしさや感動を伝えるため「移動音楽教室」、「高校音楽教室」、「楽器セミナー」、「幼児移動音楽教室」等を開催する。また、本県のイメージアップを図るため、東京公演や県外公演を実施する。	定期演奏会の平均入場者数	人	1,445	1,470	1,500	279,997	313,923	273,979	年間公演回数 247回(年間鑑賞者数 149,063人)うち、定期演奏会 10回(入場者数 14,450人) ※ 1回平均 1,445人	5継続(見直しあり)	定期演奏会をはじめとする各種公演会、小・中学校等での移動音楽教室等を通じ、地域に根ざしたトップクラスの楽団として県民に愛され、本県の音楽文化の向上と振興に大きく貢献していることから、継続、引き続き、県支のあり方や楽団運営のあり方等について検討する必要がある。	5継続(見直しあり)	群馬文芸楽団は本県の音楽文化の向上と振興に貢献していることから、継続、引き続き、県支のあり方や楽団運営のあり方等について検討する必要がある。

⑨県産農畜産物に対する消費者・実需者の視点を重視し、多様なニーズに対応したブランド戦略を効果的に展開します。

ブ推004 県産農畜産物ブランド力強化対策	再興	農政部	ぐんまブランド推進課	県産農畜産物販売戦略協議会を中心に、消費者・実需者の視点を重視した販路戦略を展開し、県産農畜産物のブランド力を高め、販売競争力の強化を目指す。	都県における県産農畜産物8品目の取扱金額	億円	158	155	161	43,124	40,143	40,443	首都圏の「群馬県産農畜産物販売協力店」において、県産食材を使用した特別メニューを提供する「食彩フェア」を、民間事業者と協働して実施した。すま焼アップションでは、新たに県民参加型の「オールくまのすま焼まつり」を開催するなど、県産農畜産物のブランド強化を図った。	4継続	「くまのすま焼」を本県ならではのおもてなし料理として定着させ、県産農畜産物の販売促進を図ると、「くまのすま焼アップション」の取組を5年間継続し、向アソシエーション企業数を400社を超えるなど、県内での浸透が進みつつある。さらに県内浸透を図るため、フレンドリーC、D等に向け、新たなPRコンテンツを追加して事業に取り組みることが必要である。	4継続	県産農畜産物のブランド力を向上させ、競争力強化に取組むことは重要であるため、継続、これまでの取組について成果を検証した上で、ブランド力強化に向けより効果的な事業内容を検討すること。
畜産014 畜産物流通消費	再興	農政部	畜産課	県産食肉の消費拡大及びブランド化を推進するため、群馬県食肉品質向上対策協議会が実施する県産食肉の広告宣伝、イベント等での普及・啓発等の費用の一部を補助する。	県産食肉取扱推進店認定件数	件	314	342	382	5,780	5,301	5,343	枝肉共進会を通じて農家の飼養技術の向上、高品質食肉生産の推進、県内輸出に係るモニタリング検査支援、県産食肉の認知度向上、消費拡大のための販促資材の作成等の支援	4継続	衛生的な施設で処理された高品質な県産食肉を、県内外及び海外に積極的にPRし、県産食肉の認知度向上、消費拡大を図る必要がある。衛生基準の厳しいE.Uへの出荷も拡大しており、モニタリング検査にかかる支援も継続して行う必要がある。	4継続	県産食肉のPRや輸出に係る衛生対策等により、消費拡大・ブランド化を推進するための取組であり、継続、効果の検証を行いながら、より効果的なPRを進めていくことが重要。

⑩観光キャンペーンや民間との連携を活用して、積極的な誘客宣伝を展開するほか、海外メディアへのPRや、海外観光展等での情報発信を行います。

観物001 ググとくま観光キャンペーン	再興	産業経済部	観光物産課	H23年度に実施した群馬ステーションキャンペーンを契機に継続実施している観光キャンペーンについて、これまでの成果を鑑み、引き続き実施し、本県への誘客促進を行う。	期間中の観光入込客数	人	20,127,909	20,630,000	-	16,300	16,300	16,300	H29年新たに7月～9月をキャンペーン期間とし、首都圏を中心に、広域宣伝、誘客促進活動を実施した。期間中の観光入込客数は、天候不順があったものの宿泊予約増加したこともあり、目標であった2,067万人には及ばなかったが前年同期と比較して、368,686人増(対前年比1.9%増)の20,127,909人となった。	1中止・休止・終了	2011年の群馬DC後、継続して県単独の観光キャンペーンを実施し、群馬の魅力をPRしてきたことが、2020年春期の群馬DC開催決定につながった。東京オリンピック・パラリンピック開催による外国人観光客の需要やGメン等群馬のブランドを広くPRすることを踏まえて、継続して観光誘客に取組む必要がある。ただし、2020年春期の群馬DC開催に向けた準備が必要ことから、本事業については一時休止とする。	1中止・休止・終了	2020年に群馬DCの開催が決定したことから、本事業については休止とする。
観物008 国際観光展くま	再興	産業経済部	観光物産課	群馬県の知名度アップを図り、本県への外国人観光客を増大させるため、国・他県とも連携を図りながら、観光情報収集・発信等を実施する。	外国人宿泊者数	万人泊	27.1	17.4	20	60,731	56,740	57,067	・現地プロモーション 8回(台湾、香港、シンガポール、マレーシア、タイ、泰国) ・旅行エージェント・メディア招聘・取材対応等(広域連携会) 東アジア、東南アジア、欧米等) 21回 ・多言語観光情報サイト運営(英語、中文繁体字、中文简体字、韓国語、タイ語版) ・教育旅行 16ツアー(台湾)	4継続	これまでの現地プロモーションや県内招聘事業、情報発信等により、外国人宿泊者数は順調に増加してきたが、東京オリンピック・パラリンピックを控え、特に外国人観光客受入環境整備を推進する必要がある。あわせてプロモーション活動を継続することで、効果的に観光誘客需要を取り込み、県経済の活性化に繋げられると考えられる。	4継続	現地プロモーションや県内招聘等により、外国人宿泊者数は順調に増加している。今後は、群馬DC東アジア観光展を実施していく必要があることから、継続。
観物003 群馬の観光イメージアップ	再興	産業経済部	観光物産課	群馬の観光イメージアップを図るために、くま大使の活動を通じた広報宣伝を展開する。	宿泊客数(国土交通省 宿泊旅行統計調査)	万人	876	932	950	4,394	4,454	4,365	J R東日本の月別定点宣伝地域の指定を受けたため、くま大使の活動に対する関心を高めるため5連泊スターを作成。	4継続	くま大使の関心を高め、観光誘客につながるためにも一般の関心を高めるようなポスターなどの作成は有効であり、群馬県の認知度を高めるためにも継続した取組が必要である。	4継続	県内外からの観光誘客を図るために、引き続き、ツアーバスとE.U.P.O.ソフコに出展するほか、くま大使やくま大使特使制度を活用することで、くま大使の魅力を積極的にPRしていく。また、くま大使がおもてなしの旗印の拡充により、観光PRとあわせて県民向けのおもてなし意識の醸成を図っていく必要がある。
観物004 観光宣伝	再興	産業経済部	観光物産課	県内への誘客を図るため、様々な手段を用いて県内観光に関する広報・宣伝活動を行う。	宿泊客数(国土交通省 宿泊旅行統計調査)	万人	876	932	950	27,479	27,479	26,870	くま大使おもてなし県による本県のPRを行ったほか、東アジア最大級の旅行博であるアジアLEXPOジャパンにてブース出展し、観光誘客を図った。また、より効果的な観光PRを進め、くま大使特使制度の見直しを行った。	3拡充	県内外からの観光誘客を図るために、引き続き、ツアーバスとE.U.P.O.ソフコに出展するほか、くま大使やくま大使特使制度を活用することで、くま大使の魅力を積極的にPRしていく。また、くま大使がおもてなしの旗印の拡充により、観光PRとあわせて県民向けのおもてなし意識の醸成を図っていく必要がある。	4継続	2020年の群馬DCに向け、県内外・県内外から観光誘客を図るためには、多様な手段での広報・宣伝等の活動が重要であり、継続、おもてなしの旗印の拡充については、9月補正予算で体制を拡充したため、30年度下半期の活動実施等を踏まえ検討する必要がある。

施策3 歴史文化遺産活用・発信

【目的】世界遺産や東国文化など、本県が誇る歴史文化遺産を活かして、県民の再認識を促すとともに、群馬のイメージアップにつなげる。

(1)世界遺産や絹文化の活用・発信

①世界遺産の保存整備を進め、その価値を発信し、活用と継承への意識を醸成します。																	
世遺001 世界遺産・くま絹産物の継承	企画部	世界遺産課	世界遺産	世界遺産・くま絹産物の保存整備、総合的な情報発信のための拠点施設整備、絹産物に関する研究等を行う。	世界遺産構成資産を複数訪れたことのある県民の割合	%	43.9	30	40	309,789	678,987	264,151	世界遺産を将来の世代に確実に引き継ぐため、構成資産で行われた保存修理に対し事業費を補助した。また、昨年度に引き続き高岡製糸場東置置所で企画展を実施するとともに、世界遺産の価値を発信する世界遺産センターの展示設計を行った。	4継続	県民の絹産物に対する関心をより一層高めるため、世界遺産・日本遺産・くま絹産物の価値を総合的に情報発信する世界遺産センターの整備を進めるとともに、県内絹産物の継承と保存活用を図りたい。	絹産物に対する関心をさらに高め、地域活性化につなげていくことと、後継者に継承していくために、整備中の世界遺産センターを拠点として、より効果的な情報発信に取り組んでいく必要がある。	
道管016 世界遺産関連整備	県土整備部	道路管理課	道路管理	高岡製糸場周辺の県道前橋安中高岡線の道路改良と改良や県道高岡線高岡の道路共同整備、県道下仁田湯科線の現道拡幅等を行い、来訪者のアクセス道路の改善を図るとともに、一般河川三川川において、護岸の修繕改良を行う。	交差点改良及び電線共同溝整備進捗率	%	69	55	100	328,000	180,000	514,682	高岡交差点の改良事業、仲町通り及び高山社周辺の電線共同溝について、工事を実施した。(一)下仁田湯科線(主)下仁田湯科線の現道拡幅を1箇所、待機所整備を3箇所実施した。	4継続	世界遺産を有効活用した地域の活性化に向け、今後も、用地買収や工事を推進し、世界遺産へのアクセスルートの改良や周辺環境整備を進める必要がある。	4継続	世界遺産を訪れる観光客等の利便性向上と安全保障のため、計画的に整備を進める必要があることから、継続。

②日本遺産及びくま絹産物を活用し、魅力あふれる絹の国くまを発信して本県のイメージアップを図ります。

蚕園010 日本絹の継承	農政部	蚕糸園芸課	蚕糸園芸	蚕糸絹業に係る歴史、技術等の展示及び、絹の染織や絹クラフトの体験等を通じて、本県の伝統ある蚕糸絹業の県民理解を深めるとともに、養蚕文化の継承と蚕糸絹業関係者の交流の拠点として日本絹の里を運営する。	企画展示の開催	回	8	8	8	95,298	95,805	95,275	第3期指定管理の指定管理者(公財)群馬県蚕糸園芸協会による効率的な管理・運営を実施し、企画展示の開催や体験教室の充実のほか、接客サービス向上により快適な施設環境を提供。第三者評価委員会(6名)を2回開催し、H29年度評価を実施。企画展示・特別展示8回、施設利用者総数43,520人	4継続	「高岡製糸場と絹産物産物群の世界遺産登録に伴い絹産物再生への意識が高まる中、今後は、蚕糸や絹文化に関する県民理解を深めるとともに、養蚕文化の継承のため、企画展示機能や染織などの体験学習機能を備えた施設として運営する必要がある。	4継続	本県の伝統ある蚕糸絹業について広く県内外での理解を深め、養蚕文化を継承するための施設であり、継続、ただし、来館者数は年々減少しているため、効果的な広告など来館者数を増加させる取組を検討する必要がある。
世遺002 世界遺産・くま絹産物の普及啓発	再興	企画部	世界遺産課	世界遺産・日本遺産・くま絹産物ネットワークの推進、民間企業・団体と連携した普及イベント開催、民間団体の活動支援等	くま絹産物の認知度	%	78	50	60	32,888	25,972	25,828	解説ボランティア等による年間を通じた普及啓発活動により、今後の保存管理への理解促進や遺産継承への意識の高揚が図れた。また、「くま絹産物」を便利に楽しく理解を深めてもらったの「アブリきあめり」を制作・公開してスタンバイを実施し、周知促進を図った。	4継続	世界遺産をはじめとした県内絹産物を後継者に確実に継承していくためには、その価値の理解促進が欠かせない。引き続き、関係市町村や県民団体と協働して普及啓発を図るとともに、「アブリきあめり」を積極的に活用した周知を促進したい。	4継続	世界遺産や絹産物への関心の高まりが一過性のものとならぬよう、引き続き関係者と協力して、普及啓発・理解促進を進めていく必要があるため、継続。整備中の世界遺産センターを新たな情報発信拠点として、効果的な普及啓発に努める必要がある。

(2)東国文化の活用・発信

①群馬が古代東国文化の中心地であり、東日本最大の古墳群であるという「東国文化＝群馬」のイメージを発信、定着させ、本県のイメージアップにつなげる。

種別事業名	区分	部局	所属	事業概要	成果(結果)を示す指標	単位	H29実績	H29目標	H31目標	H29当初(千円)	H30当初(千円)	H29決算(千円)	H29事業結果	部局評価	財政課評価
文振002 東国文化周知事業	再興	生活文化スポーツ部	文化振興課	中学生向け「東国文化副読本」により本県が誇る歴史文化遺産を活用した学びを推進するとともに、「東国文化ミッド」等のイベント開催により、「群馬＝東国文化」のイメージを全国に発信・定着させる。	中学校の歴史的分野の授業において、東国文化副読本を活用した学校の割合	%	80.5	90	100	21,886	26,551	14,348	「市町村と連携した「古代東国文化フェスティバル」やシンポジウムの開催、中学1年生向けの「東国文化副読本」の配布、観光部局と連携した歴史文化遺産ツアー造成等を行った。第6回「古代東国文化ミッド」約15,000人、東国文化シンポジウム：100人、歴史文化遺産ツアー：40人	4継続	東国文化の歴史の価値や魅力を発信することは、郷土への愛着を醸成するとともに、観光においても効果が見込まれるため、継続。なお、群馬DCに向けて、市町村と連携して東国文化遺産の観光素材としてのさらなる磨き上げを図る必要がある。
文財006 古墳・金井東奥遺跡情報発信事業	再興	教育委員会	文化財保護課	県内の古墳からの出土品に関連した展示や講座、冊子の作成等を行う。	冊子の累計販売数 a：群馬県古墳総覧 b：くま古墳探訪	冊	-	-	a：1,500 b：3,000	7,776	1,130	13,491	調査成果の公開・活用に向け、古墳情報データベースとスマートフォン用アプリを作成し、アプリ公開した。また、平成29年に刊行した「群馬県古墳総覧」(くま古墳探訪の高冊子について、一般販売用の増刷を行った。	4継続	冊子の販売やアプリの活用、古墳情報データベースの公開により、調査成果の広範な活用を図る。加えて、学校教育の場で活用に向け、古墳学プログラムを作成する。保存処理が終了した金井東奥遺跡の出土品を、文化庁主催の全国巡回展や、県遺産文化財調査センター発掘情報館等で展示・公開し、県内外に向け群馬県を代表する文化財としてアピールする。
② 上野三嶽の世界記憶遺産登録を推進します。															
文振016 上野三嶽世界記憶遺産登録推進	再興	生活文化スポーツ部	文化振興課	官民一体による「上野三嶽世界記憶遺産登録推進協議会」を中心に、地元高崎市をはじめ県内関係機関等の協力をおこなう。最終的に世界記憶遺産登録(H29年)を目指す。	上野三嶽の世界記憶遺産登録	-	登録	登録	-	11,640	5,000	18,203	「上野三嶽世界記憶遺産登録推進協議会」を中心に、官民一体でユネスコ「世界の記憶」への登録を推進した結果、H29年10月31日に「世界の記憶」に登録された。登録後は、上野三嶽の世界的な価値や魅力を発信する。また、「日中韓国際シンポジウム」(登録記念式典)なども開催した。	2部小・一部廃止・統合	「世界の記憶」への登録により事業の目的は達成されたため、今後は廃止していく。なお、上野三嶽については、東国文化を構成する歴史文化遺産のひとつとして位置づけ、他の構成資産とともにその価値や魅力を発信を広く行っていく必要がある。
③ 文化財を磨き上げることにより、豊かな自然環境と優れた歴史・文化を合わせた新しい魅力を持った文化財ネットワークを創出します。															
文財001 文化財保存事業費補助	再興	教育委員会	文化財保護課	国・県指定文化財を良好な状態で保存し、活用するため、所有者(市町村、法人、個人)が実施する保存修繕等の事業に対し補助する。	補助事業件数	事業数	55	58	55	103,964	101,953	103,744	「県指定文化財保存事業」の補助16件・国指定文化財の補助16件・国指定重要文化財防火災備保守点検事業への補助7件	4継続	群馬の文化財の価値を磨き上げ、群馬の魅力として発信していくため、全国へアピールできる指定文化財の保存・整備事業に対し、積極的に補助や支援、指導助言を行う必要がある。
文財002 観音山古墳保護管理運営	再興	教育委員会	文化財保護課	史跡観音山古墳を適切に保存・管理・活用する。また、管理や来訪者への対応を充実し、文化財としての価値とあわせて、観光資源としての価値も高める。	史跡観音山古墳見学者数	人	7,882	8,000	15,000	4,379	4,371	4,295	・史跡地等の環境整備・維持管理等。史跡見学者対応(解説員2人)・史跡広報・普及活動・駐車場用地の確保上げ(※県立歴史博物館が4〜7月まで改修休館のため学見学者数は増加しなかった)。	4継続	本史跡はS48年に国指定となり、群馬県が直接管理している群馬県を代表する史跡である。所在する高崎市内の学校をはじめ、県外からの見学者も多い。今後も適切な保護管理をしていく必要がある。
文財003 上野国分寺跡保護管理運営	再興	教育委員会	文化財保護課	史跡上野国分寺跡を適切に保存・管理・活用する。また、管理や来訪者への対応を充実し、文化財としての価値とあわせて、観光資源としての価値も高める。	史跡上野国分寺跡見学者数	人	6,916	10,000	10,000	7,141	8,235	6,923	・史跡地等の環境整備・維持管理等。ガタシ施設内外の環境整備・維持管理・見学者対応(解説員3人)・対応、年末年始を除き年中無休・史跡広報・普及活動・国分寺跡史跡講座・地域行事と連携した史跡地の活用(園分まつり)が台風で中止となり、来訪者減少)。	4継続	本史跡はT15年に国指定となり、群馬県が直接管理している群馬県を代表する史跡。史跡についての広報・普及を積極的に実施し、郷土愛の醸成としての利用を推進している。さらには児童生徒の土壌への誇りや愛着を持つ心の育成に資するため、今後も適切な保護管理をしていく必要がある。
文財004 上野国分寺跡整備	再興	教育委員会	文化財保護課	史跡上野国分寺跡の整備について、発掘調査を実施し、その結果に基づき、復元等の整備を行う。	事業内容	整理作業・植栽報告書刊行	整理作業・植栽報告書刊行	保存活用計画策定	12,247	7,941	9,736	発掘調査成果を整理、総括報告書を行った。調査成果を積極的に広報するため、「上野国分寺シンポジウム」を開催し、300名の参加を得て、成果を県民に還元し、大きな関心を集めることできた。	4継続	発掘調査が完了し、出土品の安定した保管が可能となったため、今後調査成果や展示に係る情報発信を積極的に行うこととし、古墳情報発信事業へ統合する。	
文財007 金井東奥遺跡出土 甲冑装具等調査	再興	教育委員会	文化財保護課	茨川市金井東奥遺跡で発見された甲冑を調査し、その歴史や専門家に詳細調査を行う。	調査成果の公開	県博企画展での展示	県博企画展での展示	県博40周年記念展示での展示	10,311	9,017	2	保存処理が終了した1号甲冑について、保管用の安定台を作成。また、3号人骨(首飾りの古墳)の出土状況を再現した精巧なシリアルを作成し、発掘情報館で展示した。また、1〜4号人骨の保管用の安定台を作成し、このうち1・3号人骨は県博の企画展で展示した。	2部小・一部廃止・統合	出土品の保存処理や安定台の作成が終了し、長期の保管管理ができる状態を整えた。今後は、出土品やシリアルの展示や、調査成果を活用した情報発信が主要事業となることから、古墳情報発信事業へ統合する。	
文財011 文化財保護審議会運営	再興	教育委員会	文化財保護課	県内の文化財の保存及び活用に関する重要事項について審議する。県にとって重要な文化財を指定し、保護を図っていく。	国及び県指定等の文化財件数	点	921	894	898	1,472	1,509	810	年2回の文化財保護審議会を開催し、審議の結果、重要文化財建造物1件、同考古資料2件・同書跡及び重要史料1件を指定し、保護の措置を執ることができた。その他に66部門の専門部会ごとに計画的に文化財調査を行った。	4継続	県内の文化財に関する様々な内容を審議するため、各専門分野の学識経験者による協議が必要であり、審議会審議及び6部門の専門部会による文化財調査は今後も必要不可欠である。
施策4 文化・スポーツの振興・活用															
[目的]群馬の誇りを再発見し、心豊かな文化にあふれた活力ある「文化県群馬」を実現するとともに、スポーツ振興条例に基づき、明るく豊かな活力ある「スポーツ県群馬」を実現します。															
(1)文化芸術の振興・活用															
①群馬文芸楽団によるトップレベルの演奏で文化の盛り高い群馬づくりを進めます。															
文振004 群馬文芸楽団支援	再興	生活文化スポーツ部	文化振興課	子どもたちに音楽の素晴らしさや感動を伝えるため「移動音楽教室」、「高校音楽教室」、「楽器セミナー」、「幼児移動音楽教室」等を開催する。また、本県のイメージアップを図るため、東京公演や県外公演を実施する。	定期演奏会の平均入場者数	人	1,445	1,470	1,500	279,997	313,927	273,979	年間公演回数 247回(年間観覧者数 149,063人)うち、定期演奏会 10回(入場者数 14,450人) ※1回平均1,445人	5継続(見直しあり)	定期演奏会をはじめとする各種公演会、小・中学校等での移動音楽教室等を通じ、地域に根ざしたトップクラスの楽団として県民に愛され、本県の音楽文化の向上に振興に大きく貢献していることから、引き続き、財政基盤安定のための支援を行う必要がある。また、高崎芸術劇場への移転に伴うチケット料金等の改定や、経営体質の見直し等に併せて、今後の県の支援のあり方について検討を進める。
②県立美術館・博物館における鑑賞機会を充実し、県民に喜びや感動を与え、潤いのある暮らしに寄与します。															
文振009 県立美術館・博物館管理運営	再興	生活文化スポーツ部	文化振興課	学校教育を補完し、子どもたちの感性を育むほか、一般県民に優れた芸術文化に触れる機会を提供し、芸術文化への関心を高める。	県立美術館・博物館の年間入館者数(全5施設)	人	520,040	485,000	540,000	950,189	924,349	923,581	歴史博物館がリニューアル後のグランドオープンを迎えたほか、館林美術館、土屋文庫記念美術館でも前年を上回る利用があったが、5館全体の入館者数は対前年度比約98%に止まり、前年を下回った。ファミリー利用が多少自然史博物館は夏期の利用は好調であった。	4継続	歴史博物館では年度内の公開施設への再確認に向け引き続き適切な館運営を行うほか、館林美術館では東毛地区との連携強化を進める。また、各館において、芸術文化、東国文化などの浸透のためファミリー向け情報発信を行い、入館者の確保に努めるほか、学校との連携、教育普及事業の推進も積極的に進め、県有文化施設としての役割を果たしていく。
③自主性・創造性及び多様性を尊重し、県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境を整備します。															
文振005 教育文化事業団運営(県民芸術祭委託)	再興	生活文化スポーツ部	文化振興課	県展(美術・書道・写真・華道・大茶会)、県文学賞、マンガ・アニメフェスタ、演劇等の制作・公演、くま新人演奏会、県民音楽祭の開催、音楽鑑賞会、小中学校伝統芸能教室等	県民芸術祭入場者数	人	235,194	192,000	200,000	46,442	47,300	45,382	県展(美術・書道・写真・華道・大茶会)、県文学賞、GUNMAマンガ・アニメフェスタ、県民音楽祭のほかに、小中学校伝統芸能教室等を開催した。また、H30年度の公募に向けて、公募に力を入れ、県内の子どもたちに歌舞伎の魅力を伝える「子ども歌舞伎夜公演事業」も行った。(入場者数235,194人)	4継続	伝統文化や新たなメディア芸術等、幅広い芸術の振興を図るべく、県内文化団体による成果発表や、専門家による講座、子どもワークショップ等の実施を通じて、本県文化の担い手育成・文化発展に大きく寄与しており、今後も継続して事業を行う必要がある。同時の各活動達成を積極的に活用するなどの経費削減に努めるとともに、県民芸術祭運営委員会等で内容の検討を徹底していきたい。
文振010 伝統文化継承事業	再興	生活文化スポーツ部	文化振興課	地域の伝統文化を継承する活動に対して経費の一部(3分の2)を補助する。	伝統文化継承事業市町村調査で、伝承状況が盛ん・晴調・復活と回答された件数	件	-	-	-	10,136	10,136	8,641	県内各地域の伝統芸能や祭り等の継承活動を支援した。支援件数35件。	4継続	伝統文化の継承活動への支援を通じて、人と人との絆が結ばれた。安心安全な地域づくりを推進することができた。支援実績は35件で微減となった。今後は市町村との連携による周知を図りながら、より利用しやすい制度の実現と、県内全域の伝統文化の継承状況の改善に向け継続して取り組む。
文振011 文化づくり支援事業	再興	生活文化スポーツ部	文化振興課	文化を通じた人づくりや文化の力で地域を元気づける活動に対して経費の一部(2分の1)を補助する。	「群馬の文化」支援事業の支援件数	件	25	20	20	11,217	9,070	7,735	「群馬の文化」の形成につながる地域での多様な創造性豊かな文化活動を支援した。支援件数25件。	4継続	文化振興指針の重点施策である「文化力の向上」「次世代の育成」「文化遺産の発掘活用」の3つを、総合的かつ効果的に推進する文化活動を支援することができた。今後は、市町村や各種団体が広く活用できる制度となるよう周知を図る。
④文化の継承及び発展を担う人材・団体を育成します。															

		個別事業名	区分	部局	所属	事業概要	成果(結果)を示す指標	単位	H29実績	H29目標	H31目標	H29当初(千円)	H30当初(千円)	H29決算(千円)	H29事業結果	部局評価	財政課評価		
		文展010 伝統文化継承事業	再掲	生活文化スポーツ部	文化振興課	地域の伝統文化を継承する活動に対して経費の一部(3分の2)を補助する。	伝統文化継承事業市町村調査で、伝承状況が「盛ん・順調・復活」と回答された件数	件	-	-	-	10,136	10,136	8,641	県内各地域の伝統芸能や祭り等の継承活動を支援し、支援件数35件。	4継続	伝統文化の継承活動への支援を通じて、人々と絆が結ばれ、安心安全な地域づくりを推進することができた。支援実績は35件で達成となった。今後は市町村との連携による周知を図りながら、利用しやすい制度の実現と、県内全域の伝統文化の継承状況の改善に向けて継続して取り組む。	4継続	伝統文化の継承活動を支援することで、地域社会の再生を推進するため、継続、引き続き、補助の効果を検証しながら、適切な執行に努めること。
		文展011 文化づくり支援事業	再掲	生活文化スポーツ部	文化振興課	文化を通じた人びとや文化の力で地域を元気にする活動に対して経費の一部(2分の1)を補助する。	「群馬の文化」支援事業の支援件数	件	25	20	20	11,217	9,070	7,735	「群馬の文化」の形成につながる地域での多様な創造性豊かな文化活動を支援した。支援件数25件。	4継続	文化振興指針の重点施策である「文化力の向上」「次世代の育成」「文化遺産の発掘活用」の3つを、総合的かつ効果的に推進する文化活動を支援することができた。今後は、市町村や各種団体が広く活用できる制度となるよう周知を図る。	5継続(見直しあり)	県内で行われる多様な創造性豊かな文化活動を支援するため、継続、市町村が協力して地域の文化を振興していくため、市町村への補助については見直しを検討すること。
(2)スポーツの推進・活用																			
①地域スポーツの振興を図るため、県民がスポーツに親しむ場・環境を提供します。																			
		スポ001 生涯スポーツ振興	再掲	生活文化スポーツ部	スポーツ振興課	県民の身近な地域で継続的にスポーツに親しむことができるよう、市町村と連携して、総合型地域スポーツクラブ活動を支援するとともに、地道な活動を継続し生涯スポーツの健全な普及発展に貢献した関係者及び団体を表彰する。	総合型地域スポーツクラブの会員数	人	8,514	8,570	8,790	1,683	1,573	1,253	各地域で展開されている総合型地域スポーツクラブの創設及び育成や運営等の支援と生涯スポーツに関する情報を提供した。1クラブが創設され、2クラブが廃部となり、43クラブが活動した。また、だれもが参加できるスポーツ大会を年際を通じて33大会開催し、15,697人の参加を得た。	4継続	県民が主体的にスポーツに親しめる環境の整備と県内の生涯スポーツを推進するため、総合型地域スポーツクラブの設立や安定したクラブ育成に対する支援と生涯スポーツに関する情報提供を継続して行う。	4継続	総合型地域スポーツクラブの会員数は増加しており、事業効果は認められる。今後も、身近な地域で継続的にスポーツに親しむことができるよう、市町村と連携して、生涯スポーツを振興するため、継続。
		スポ002 ぐんまマラソン		生活文化スポーツ部	スポーツ振興課	H27からぐんま県民ランニングフェスティバルを導入し、フルマラソン大会開催を望む県民の要望に応えるとともに、県内外の参加者に本県の魅力をアピールする。	大会参加者数(エントリー数)(合計)	人	16,289	15,000	15,000	50,051	47,148	45,868	フルマラソンを導入し、県内外から多くの参加者を迎えることができた。本大会の実施により参加者の健康増進を図るとともに、群馬の魅力を発信する機会ともなった。また多くのボランティアに協力いただいたなど、大きな盛り上がりが見られた。	4継続	ぐんまマラソンにおいてフルマラソンを併せて開催することにより、幅広い年代・レベルの方が参加できる機会を増やすとともに、県内外に本県の魅力をより効果的に発信することができると見込める。	4継続	幅広い年代・レベルの方が参加できる大会を開催することで、県内スポーツ活動の活性化を図ることができるとともに、県内外からの参加者や応援のたのしみが増え、本県の魅力をアピールする絶好の機会があるため、継続。
		スポ005 県有競技別拠点スポーツ施設整備		生活文化スポーツ部	スポーツ振興課	群馬県スポーツ施設の設置及び管理に関する基本計画において位置付けた県有競技別拠点スポーツ施設を計画的に整備する。	県総合スポーツセンター利用者数	千人	1,173	1,308	1,350	-	50,280	54,167	H28年度からの繰越事業として総合スポーツセンターサンプライナ内に整備を進めていた、リード競技用フライングウォールが完成し、国体関東ブロック大会(山岳競技)の会場として使用した後、一般利用を開始した。	4継続	県有競技別拠点スポーツ施設について、2028年開催予定の国体等の大規模大会の会場や、将来にわたる県民のスポーツ活動の受け皿として活用できるよう、引き続き計画的な整備を推進していく必要がある。	4継続	基本計画に位置付けた県有競技別拠点スポーツ施設について、利用者が安心・安全に利用できるように必要な維持補修等を行うための経費であり、国体の開催に備え、既存施設の活用を前提とした計画的な整備を実施していく必要がある。
		スポ006 市町村有競技別拠点スポーツ施設整備		生活文化スポーツ部	スポーツ振興課	群馬県スポーツ施設の設置及び管理に関する基本計画において位置付けた市町村有競技別拠点スポーツ施設の整備に対する市町村への補助制度を創設する。	二巡目国体開催に向けた施設整備	件	2	3	3	98,427	90,163	100,000	太田市運動公園野球場の修繕及び沼田市民体育館改修の2事業に対して補助を行った。(沼田市民体育館改修についてはH30年度に繰り越して補助を行う。)	4継続	2028年開催予定の国体等の大規模大会を見据えたスポーツ施設整備を市町村と連携して計画的に進めていくため、引き続き市町村に対する支援を行う必要がある。	4継続	大規模大会の本県で開催するために必要な市町村有競技別拠点スポーツ施設整備の補助であり、継続。
		都計007 県立都市公園管理	再掲	県土整備部	都市計画課	県立都市公園(数島公園、群馬の森、観音山ファミリーパーク、金山総合公園、多々良沼公園)の管理を適正に実施し、環境に親しむ場の提供を推進する。	公園来場者数	千人	2,592	2,350	2,350	711,504	1,318,568	926,470	指定管理者制度等による公園の適正な管理を行った。「都市公園長寿命化計画」の見直しを行うとともに、計画に基づく公園施設の適正な維持管理を行った。	4継続	県民の憩いの場である都市公園を、県民が安全に安心して利用してもらうために必要な事業である。	4継続	県が管理する都市公園を、県民が安全に利用するために必要な事業であり、継続、引き続き、メンテナンスの追加導入の検討など財源確保の取り組みや効果的な維持管理に努めていく必要がある。
		スポ011 アウトドアスポーツ推進	再掲	生活文化スポーツ部	スポーツ振興課	豊かな自然環境を活かした既存のアウトドアスポーツを盛り上げ、アウトドアスポーツ天国ぐんまをブランド化し、国内外の観光客の増加等を図る。(県境の山々の縦線100kmを活用したロングトレイル整備の検討)	縦線トレイル関連イベント実施回数	回	3	3	5	34,872	31,038	29,249	未開通区間の登山道整備(測量調査、国有林貸付)、既設登山道の再整備(国立公園計画見直し、山小屋改修等)、P・R事業(講演会、トレイルコマック、副産物、P・R映像作成等)を行った。	4継続	全線開通に向けた準備や、幅広い周知活動を行ったことにより、開通に向けて関心も高まっている。今後トレイルが安全に活用されるための取組に加え、関係市町村等との連携により周辺の観光資源と結びつけ、地域振興に繋がる施策の充実が必要である。	4継続	アウトドアスポーツを通じて群馬の魅力を国内外に発信し、観光客の増加等を図るため、継続。なお、トレイルが安全に活用されることにより、効果的に魅力を発信するため、引き続き、関係部局、市町村、関係団体等と連携して、取組を進める必要がある。
②本県選手が全国・世界の舞台で活躍するために競技力の向上を推進します。																			
		スポ003 競技力向上対策費(選手強化費)		生活文化スポーツ部	スポーツ振興課	(公財)群馬県スポーツ協会が実施する競技力向上対策事業及び同協会加盟の各競技団体・学校体育団体が実施する強化活動に対する経済的援助を行う。	国民体育大会総合順位	位	22位	15位以内	15位以内	200,000	200,000	197,788	本県競技スポーツ選手の全国や国際大会等での活躍を目標に、競技団体や学校体育団体が実施する事業に対して競技力向上対策費を補助し、選手強化、ジュニア選手の発掘や育成、指導者の育成等を行ったが、H29年度団体では、総合順位22位、950.0点というところで目標には及ばなかった。しかし、冬季オリンピックには本県関係選手4名が出場し、金メダルを生み出すことができた。	4継続	2020年の東京オリンピック・パラリンピックや北関東インターハイ、2028年の本県開催予定の国体を見据えて、全層階の競技力向上を目指して計画的に強化を行いたい。そのためジュニア選手の発掘・育成・強化やトップアスリートへの活動に対するサポート、指導者の養成・資質向上など、競技力向上対策事業を継続して実施する必要がある。	4継続	本県の競技者育成、指導者の養成に必要な補助金であり、継続、国体等の成績向上に向け、効果的、効率的な事業となるよう、引き続き、事業内容を検討すること。
③生涯スポーツに貢献した人・団体を表彰します。																			
		スポ001 生涯スポーツ振興	再掲	生活文化スポーツ部	スポーツ振興課	県民の身近な地域で継続的にスポーツに親しむことができるよう、市町村と連携して、総合型地域スポーツクラブ活動を支援するとともに、地道な活動を継続し生涯スポーツの健全な普及発展に貢献した関係者及び団体を表彰する。	総合型地域スポーツクラブの会員数	人	8,514	8,570	8,790	1,683	1,573	1,253	各地域で展開されている総合型地域スポーツクラブの創設及び育成や運営等の支援と生涯スポーツに関する情報を提供した。1クラブが創設され、2クラブが廃部となり、43クラブが活動した。また、だれもが参加できるスポーツ大会を年際を通じて33大会開催し、15,697人の参加を得た。	4継続	県民が主体的にスポーツに親しめる環境の整備と県内の生涯スポーツを推進するため、総合型地域スポーツクラブの設立や安定したクラブ育成に対する支援と生涯スポーツに関する情報提供を継続して行う。	4継続	総合型地域スポーツクラブの会員数は増加しており、事業効果は認められる。今後も、身近な地域で継続的にスポーツに親しむことができるよう、市町村と連携して、生涯スポーツを振興するため、継続。
④東京オリンピック・パラリンピック等の事前キャンプ地誘致や団体招致を推進します。																			
		スポ004 キャンプ地誘致推進		生活文化スポーツ部	スポーツ振興課	ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた、大規模スポーツイベントの事前キャンプ地誘致を行う。	キャンプ地誘致実現	4国5種目	基本合意	-	-	2,000	268	136	市町村のキャンプ地誘致にかかる気運を醸成するため、関係団体を招き、先遣自費講演会を開催した。また、市町村を構成員とするオリンピック・パラリンピック等連絡調整会議において、キャンプ地誘致にかかる情報交換を行った。	5継続(見直しあり)	東京2020オリンピック・パラリンピックに向けたキャンプ地誘致活動については、現在、各市町村が相手国と個別交渉を行っている段階であり、県としては市町村の交渉に対する情報提供等の協力を行うとともに、今後は、基本合意に達した相手国の選手と県民との交流事業や、オリンピック聖火リレーの開催準備等、オリンピック開催に向けた気運醸成に取り組む。	5継続(見直しあり)	キャンプ地誘致活動推進については各市町村の誘致活動から実施に移行して行き、今後は、聖火リレーの開催準備等オリンピック・パラリンピック開催に向けた気運醸成に取り組むことが求められる。事業内容についてはH31当初予算に向けてよく検討する必要がある。